



TITLE:

佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來

AUTHOR(S):

山本, 美越乃

CITATION:

山本, 美越乃. 佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來. 經濟論叢 1917, 4(6): 928-935

ISSUE DATE:

1917-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127211>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號六第 卷四第

行發日一月六年六正大

論 說

中壽ノ説(二).....

法學博士

財部 靜治

奢侈税ノ本質及其構造.....

法學博士

神戶 正雄

『座』ノ研究(三、完).....

文學博士

三浦 周行

東洋ニ於ケル古代ノ社會政策.....

瀧本 誠一

時事問題

船腹調節策.....

法學博士

戶田 海市

禁輸及關稅ニ依ル包圍攻撃.....

法學博士

神戶 正雄

米國ノ勞働缺乏ト日本移民.....

米田 庄太郎

雜 錄

Utilityノ譯語ニ就イテ.....

文學士

小島 祐馬

海上保險發展史ニ關スル一異説.....

法學士

小島 昌太郎

山片幡桃ノ米價論.....

法學士

本庄 榮治郎

精神の活力ト年齡.....

法學博士

河上 肇

佛領亞弗利加植民地鐵道ノ現在及將來.....

山本 美越乃

Ch. Boothノ死ヲ聞キテ.....

法學博士

財部 靜治

佛領亞弗利加植民地鐵道ノ

現在及將來

山本美越乃

本誌前號ニ吾人ハ獨領植民地處分問題ニ關スル英國内ニ於ケル輿論ノ傾向及之ニ對スル臆見ノ一端ヲ揭ゲシガ、獨領亞弗利加植民地問題ヲ講和ノ一條件トナス場合ハ勿論假令然ラザル場合ト雖ドモ、亞弗利加ノ將來ハ政治上及經濟上極メテ興味アル幾多ノ研究問題ヲ提供スルガ故ニ、獨リ當該植民地國間ノミナラズ、其ノ富源ノ開發ニ伴ヒ直接間接ニ通商ノ關係ヲ擴張シ得ベキ國ニ在リテハ、少クトモ其ノ内部的ノ事情ニ關シテハ諸種ノ方面ヨリ一應ノ理解ヲ必要トスベキハ論ヲ俟タズ。

今ヨリ殆ンド半世紀前ニ於テハ暗黒大陸トシテ奴隸ノ供給以外ニハ全ク世界ト沒交渉ノ地位ニ在リシ亞弗利加モ、英・佛・獨・葡・伊等ノ歐洲植民地國ノ分割領有ニ歸シテヨリ以來銳意交通運輸機關ノ促成ニ由リ、現今ニ於テハ全ク昔日ノ

面目ヲ一新シ、各植民地共ニ所謂植民地貨物“Kolonialwaren”ノ產額ハ歲ト共ニ益々増加セントスルノ趨勢ヲ示シツツアリ。蓋シ文化ノ程度ノ幼稚ナル地方ニ於ケル富源ノ開發ハ、通商航海ノ自由及道路・運河・鐵道等ノ内地交通機關ノ發達ヲ俟テ初メテ之ヲ期待シ得ベキガ故ニ、植民地開發ノ第一歩ハ先ツ交通運輸ノ設備ノ完成ニ在リト言フモ不可ナク、是レ歐洲諸國ガ亞弗利加内地ノ交通機關ノ促成ニ全力ヲ注ギツツアル所以ニシテ、現ニ曠古ノ大戰中ナルニ拘ハラズ亞弗利加内地ノ交通機關殊ニ鐵道ノ發達ハ、過去二年間ニ於テスラ頗ル著シキモノアリ、就中(一)獨領東亞弗利加ニ於ケル Tanganyika 鐵道ノ完成、(二) Cape Colony 鐵道及獨領西南亞弗利加鐵道ノ接續、(三)紅海近岸ニ於ケル Jibutiヨリあびしにあノ首都 Addis Abeba ニ達スル佛國鐵道ノ完成、(四)もろっこニ於ケル Rabat-Fez 鐵道ノ建設、(五)こんじー河口ヨリたんがんにか湖畔ノ Albertville ニ達スル鐵道及水路ノ連絡ノ完成、(六)うがんだ鐵道及獨領東亞弗利加

Tanga 鐵道ノ接續等ハ最モ注目スベキモノニシテ、是等ノ交通機關ハ今次ノ大戰ノ爲メニ毫モ其ノ工事ノ進捗ヲ妨ゲラレザルノミナラズ、却テ諸種ノ理由ヨリ寧ロ之ヲ促成セシメタルガ如キ觀アリ。

此ノ如クシテ嘗テ暗黒大陸ヲ以テ目セラレタル亞弗利加内地ノ富源モ、交通機關ノ發達ト共ニ將來遺憾ナク開發セラルルニ至ルノ日アルベキハ疑ヲ容レズ、殊ニ大陸ノ南部及北部ハ最モ有力ナル鐵道網ヲ有シ、之ガ爲メニ其ノ經濟的ノ活動ニ多大ノ貢獻ヲ爲シツツアルコトハ顯著ナル事蹟タリ、即チ南亞ニ於テハ富源ノ最モ豊カナル東南部ハ鐵道ニ依リテとらんすばゝるト連結セラレ、又けゝぶたをんヲ基點トセル亞弗利加縱貫鐵道ノ主線ハ漸次中央部ニ進入シテこんびー流域ニ達シ、更ニ北部ニ於テハあるじゝりー及ちゆーにすヲ連結セル鐵道ハ地中海ヲ隔テラ南歐諸國ト連絡ヲ保チ、北部亞弗利加ノ富源ノ開發ヲ資ケツツアルコト頗ル大ナリトス。而シテ既ニ完成シ若クバ殆ンド完成セントシツ

ツアル亞弗利加植民地鐵道中最モ重要ナルモノハ、(一)嘗テせしるろーづニ依リテ主唱セラレタル亞弗利加縱貫鐵道(Cape-to-Cairo 線ノ一部ヲ構成スベキ埃及ぞーだん鐵道、(二)うがんだ鐵道、(三)たんがんにか鐵道、(四)Cape-to-Katanga 鐵道ノ四線ニシテ、之ニ將來建設セラルベキさはら縱貫鐵道(Trans-Sahara Railway)ヲ加へ、五大重要線路ト稱セラル。

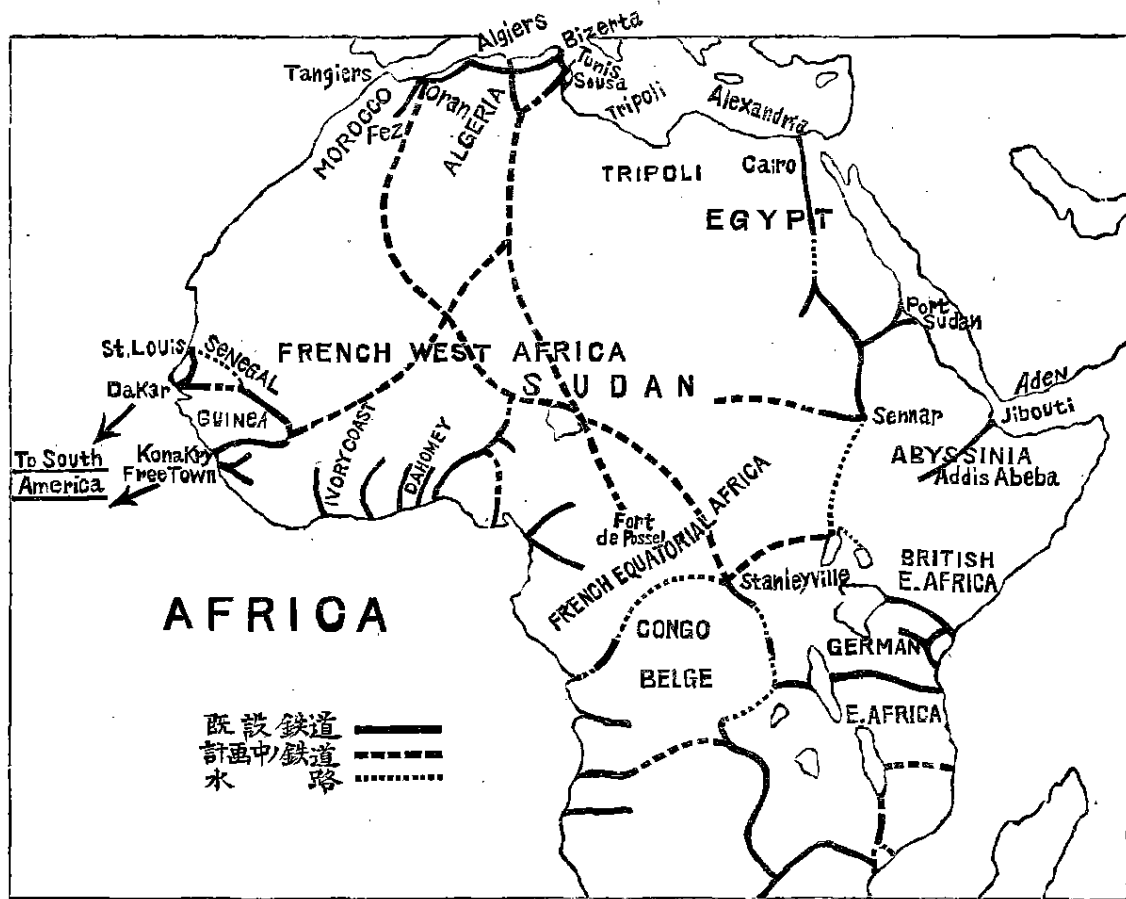
亞弗利加ニ於ケル交通機關問題ニ就キテハ特ニ佛國ノ占ムル優秀ナル地位ニ關シテ注意スルノ必要アリ、佛國ハ歐洲ニ最モ接近セル北部地方ニ鐵道ニ依リテ連結セル幾多ノ樞要ナル港灣(Sua, Tunis, Bizerta, Algiers, Oran等)ヲ有シ、且もろつこニ於ケル優越的ノ地位ハ、地中海岸及亞弗利加ノ北西岸ヲ通ジテ他國ノ競爭の勢力ノ進入ノ餘地ナカラシメ、更ニ西部亞弗利加ノ植民地ハ南米ニ最モ近ク、是等ノ地方ニ於ケル鐵道ハ太平洋ヲ横斷シテ直接南米ノ諸港ト連絡スルノ便ヲ有スルガ故ニ、將來さはら鐵道ノ完成ヲ見ルニ至ル時ハ、佛領ぎねあ及せねがるハあ

るじりー及ちゅーにすト共ニ南米對歐洲ノ連絡ノ基點トシテ、極メテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルベキハ想像スルニ難カラズ、又佛領あいばりー、こーすと及だほめーはさはら鐵道ノ完成ト共ニ、東ニ於テハずーだんニ又南ニ於テハ佛領こんじー地方ニ連絡スルコトヲ得ベク、此ノ如クセバ從來暗黒大陸中ノ最暗黒地方トシテ知ラレタル中部亞弗利加ハ、南部地方ニ比シテ寧ロ富源ノ開發上ニ多クノ便益ヲ享有スルニ至ルベシ。

斯ク觀察シ來ル時、Trans-Sahara 鐵道ノ價值、Cape-to-Cairo 鐵道ニ比シテ毫モ遜色ナキノミナラズ、否、中部亞弗利加ニ對スル通商交通ノ機關トシテハ却テ之ニ優ルモノアリト謂フモ過言ニ非ズ、是レ該鐵道ノ夙ニ佛國ニ於テ其ノ必要ヲ唱導セラレツツアル所以ニシテ、一八三〇年ニ初メテ其ノ計畫ヲ發表セシヨリ以來、さはら鐵道問題ハ或ハ口ニ或ハ筆ニ屢々研究論議セラレ、又政治上ノ問題トシテモ上下兩院ノ討議ニ上リシコト一再ナラズ、終ニ一八九七年

ニ至リ政府ハ議會ノ協賛ヲ經テ委員ヲ任命シ、茲ニ具體的ニ該線路ノ測量ヲナスニ至レリ、然レドモ斯カル大事業ノ計畫ハ到底短日月間ニ其ノ成功ヲ期待スルコトヲ得ザルハ明カニシテ、殊ニ其ノ沿線ニ於テハ尙獨立ノ體面ヲ維持シツツアリシ、さはら及ずーだん種族等ノ從來佛國ノ前進ヲ妨ゲタルモノアルト、英國モ亦中部亞弗利加ニ於ケル佛國ノ活動ヲ喜バザル等ノ事情ヨリ、該計畫ハ遲タトシテ進マザリシガ、是等ノ二大障礙ハ近時徐々ニ除去セラレ、即チさはら及ずーだん地方ノ平定ニ次デ、今次ノ大戰ノ齎ラセル英佛兩國ノ亞弗利加ニ於ケル協同的ノ動作ハ、南部及東部ニ於テハ英國ノ優越權ヲ認ムルト共ニ、中部及西部ニ在リテハ佛國ノ活動ヲ是認セシムルノ好機會ヲ與ヘタルモノト言フヲ得ベキガ故ニ、該事業ノ完成ハ今ヤ一ニ時ト資本トノ問題ニ歸着スト謂フモ不可ナシ。

さはら鐵道ニ關シテ特ニ吾人ノ注意スベキ事項ニアリ、(其一)ハ該鐵道ハ全ク佛國ノ鐵道トシテ主トシテ佛國ノ利益ニ供スル目的ヲ以テ計



畫セラレツツアルコトニシテ、固ヨリ之ガ完成後ハこんごー地方ニ於テ白耳義及英國ノ鐵道ト接續スルニ至ルベキ故ニ、斯カル點ヨリセバ是等ノ兩國モ亦其ノ餘惠ヲ享クベシト雖ドモ、他方ニ於テハ歐洲對中部及南部亞弗利加ノ交通ハ、Cape-to-Cairo 線ニ依ルヨリモさはら線ニ依ル方直接且迅速ニ達シ得ベキヲ以テ、之ガ完成ノ曉ニハ前者ノ受クル打擊ハ決シテ渺少ナラザルベシ、(其二)ハ該鐵道ハ二大部分ニ分レ各部互ニ廣大ナル經濟的ノ領域ヲ有スルコトニシテ、即チ一ハ中部亞弗利加殊ニこんごー地方ノ富源ノ開發ヲ資クルト共ニ、亞弗利加縱斷ノ貨客ヲ吸收スルコトヲ得、他ハ西部亞弗利加ノ開發ニ便ヲ與フルト共ニ、歐洲對南米間ノ交通ヲ容易ナラシムルノ作用ヲ有スルコト是レナリ、特ニ此ノ最後ノ目的即チ歐洲諸國ト豐饒ナル自然ノ富源ヲ有セル南米諸國トノ交通ヲ迅速敏活ナラシムルコトハ、將來ノ世界的交通路ニ一新紀元ヲ劃スルモノト謂フヲ得ベシ、蓋シさはら鐵道ノ完成ハ地中海岸ヨリ西部亞弗利加ニ於

ケル Konakry 又ハ Free Town ヲ經テぶらじるノ西端 Natal(or Rio Grande)ヲ連結セシメ、更ニびくとりありを、で、じゃねーる・ベのす、あこれす等ヲ經テ南米ノ西岸ばるばるいそニ到ル迄、最モ迅速且容易ニ達スルコトヲ得セシムベキヲ以テナリ、此ノ如クスル時ハ歐洲對南米間ノ航路ハ裕ニ一千七百哩餘ヲ減ズルコトヲ得ベシト云フ、而シテ地中海沿岸ニ於テ能ク此ノ目的ニ應ジ、さはら鐵道ノ起點若クハ終點トナリ得ベキ良港ヲ求メバ、先ヅ指ヲ Bizerta ニ屈セザルヲ得ズ、びつゐるたハ國際關係上ヨリセバ Tangiers ニ似タルモノアルモ、後者ハ西班牙及英國ノ共ニ此所ニ佛國ノ強大ナル勢力ノ扶植ヲ欲セザル理由アルヲ以テ到底問題トナラザルベク、果シテ然リトセバ地中海沿岸ニ於テハびつゐるたヲ除キテハ他ニ歐洲連絡ノ要港ヲ發見スルコト能ハザルベシ。

以上ハ將來完成セラルベキ亞弗利加縱貫鐵道ノ一タ爾さはら鐵道ニ就キテ注意スベキ事項ナルモ、該鐵道ヲシテ啻ニ歐洲對南米間ノ接續線

タラシムルノミナラズ、更ニ中部及西部亞弗利加開發ノ一大動脈タラシメンガ爲メニ、佛領各植民地ニ於テ之ニ接續セシムル目的ヲ以テ、既ニ其ノ準備ニ着手シツツアル鐵道ニ就キテ要説セバ左ノ如シ。

(一) せねがる鐵道 せねがるハ佛國ノ西部サードン地方ニ進入セル最初ノ地點ニシテ既ニ二條ノ鐵路ヲ有ス、一ハ亞弗利加西岸ノ要港 *St. Louis* 及 *Dakar* ヲ連結セルモノニシテ延長一百六十四哩、他ハ是等ノ兩港ト西部サードン地方ヲ接續セントスルモノニシテ既ニ全長六百有餘哩ノ開通ヲ見ルニ至レリ、該鐵道ノ沿線ハ土地膏腴ニシテ富源豐カナルヲ以テ名アリ。

(二) 佛領ぎねあ鐵道 西部亞弗利加ニ於ケル家畜ノ一大產地タル佛領ぎねあニ於テモ亦延長四百三十哩ノ鐵道ヲ有シ、遠カラズシテ前掲せねがる鐵道ト共ニサードン地方ニ接續セントシツツアリ。

(三) あいばりー、こーすと鐵道 象牙海岸ニ於テハ現今延長一百九十五哩ノ鐵道ヲ有シ、該鐵

道ハ將來北東ノ方向ニ延長セラレ、*Senegal* 及 *Niger* 河ノ上流ニ於テさはら鐵道ノ支線ニ合セラレントスルモノナリ。

(四) だほめー鐵道 佛領だほめーニ於テモ亦延長四百五十八哩ノ鐵道布設ヲ計畫シ、現今ハ未ダ一百六十二哩ノ開通ヲ見タルニ過ギズト雖ドモ、全部完成ヲ告グル時ハ前掲諸線ト共ニ西部サードンニ於テさはら鐵道ニ接續セントスルモノナリ。

以上ノ他亞弗利加ニ於ケル佛國植民地ノ交通機關ニ就キテ注意スベキハ、あびしにあ・もろつこ及北亞弗利加鐵道等ニシテ、

あびしにあ鐵道ハ紅海近岸ノぢぶちーヨリあびしにあノ首都あでいす、あべばニ達シ、對岸あでんと相呼應シテあびしにあノ開發ヲ助クルコト頗ル大ナリ、該鐵道ハ將來東部サードンニ於ケル佛領植民地ニ延長セラレントスルノ計畫アルガ故ニ、さはら鐵道ノ完成セラルル時ハ之ト接續スルコトニ依リテ、亞弗利加ノ東西兩岸ヲ連結セシムルコトヲ得ベク、政治上及經濟上

極メテ重要ナル主線ノ一部ヲ成スモノタリ、其ノ延長ハ四百九十哩ニシテ戰時中即チ一九一五年五月開通ス、ちぶち一港ハ現今ノ設備ヲ以テハ年々増加ノ趨勢アル輸入貨物ヲ通過セシムルニ足ラザルヲ以テ、佛國ハ昨一九一六年五百萬法ヲ投ジテ築港事業ニ着手スルニ至リタルヲ以テ見ルモ、將來ニ對スル企望ノ一端ヲ窺フコトヲ得ベシ。

もろつこニ於ケル佛國ノ活動ハ今次ノ大戰以來次第ニ積極的ニ傾ムキツツアルガ故ニ、久シカラズシテ國內ニ重要ナル鐵道ノ布設ヲ見ルニ至ルベキヤ必セリ、殊ニ Casablanca 及 Tangiers ノ築港ノ完成後ハ内地鐵道ノ延長ハ當然ノ結果ニシテ、現ニたんじゝるヲ基點トシテ北部ノ首都 Fez ニ達スル鐵道ハ、佛・西兩國ノ會社ニ依リテ布設セラレントスルノ計畫アリ、現在ハ一九一四年ニ急設シタル軍用鐵道ヲ特別ノ條件ノ下ニ通商上ノ目的ニ使用スルノ許可ヲ與ヘツツアルモ、純然タル通商交通ノ用ニ供セラルベキ鐵道ノ完成ヲ見ルニ至ルハ蓋シ遠キニアラザル

ベシ。

北亞弗利加鐵道即チあるじゝりー及ちゅーにすニ於ケル主要ナル都市及港灣ヲ連結セル鐵道ハ殆ンド完成ノ域ニ達シ、内地ハ固ヨリ遠クさはらノ地境ニ至ル迄現今ハ通商交通上ニ何等ノ不便ヲ感ズルコトナシ、あるじゝりーニ於ケル鐵道ノ延長ハ約二千二百哩、ちゅーにすニ於テハ約一千一百四十哩ニ達シツツアリ。

此ノ如ク西部・東部及北部亞弗利加ノ佛國殖民地鐵道ハ戰時中ニ拘ハラズ豫定ノ計畫ヲ進メツツアリト雖ドモ、中部亞弗利加即チこんじゝ地方ニ於テハ未ダ積極的ニ交通機關ヲ整備スルニ至ラズ、蓋シ佛國ハ一九一一年ノ獨佛條約ニ據リ、もろつこニ於ケル佛國ノ保護權承認ノ對償トシテこんじゝ地方ノ土地約十萬方哩ヲ獨逸ニ割讓シタルヨリ以來、該地方ニ對スル諸般ノ施設ヲ一時躊躇シツツアルモノノ如シト雖ドモ、さはら鐵道終點ノ豫定地トシテ永ク現狀ニ放任セラルベキニ非ザルガ故ニ、戰後獨領殖民地問題ノ決定ト共ニ中部亞弗利加殖民地鐵道ノ

計畫ヲ見ルニ至ルベキハ想像スルニ難カラザル
ナリ。

要之、佛國ノ亞弗利加ニ於ケル植民地ニ對ス
ル政策ハ、極メテ遠大ノ企望ヲ以テ先ヅ交通機
關ノ整備ヲ計リ、然ル後徐ロニ未開ノ富源ヲ開
發セントスルニ在ルモノノ如ク、然カモ其ノ企
圖往々世人ノ意表ニ出デ、單ニ現在ノ利益ニノ
ミ眩惑セル國民ノ眼ヨリ觀レバ、恰モ一種ノ空
想ニ過ギザルガ如キ感ヲ起サシムルモノアリト
雖ドモ、嘗テ同種ノ空想ヲ以テ目セラレシスル
運河ノ如キ或ハばなま運河ノ如キ、國際交通
史上ニ一新紀元ヲ劃シタル大事業ノ孰レモ最初
ハ佛人ニ依リテ企劃セラレタルコトヲ思フ時ハ
世界的ノ交通設備ニ特殊ノ興味ト非凡ノ枝量
ヲ有セル彼佛人ノさはら縦貫鐵道ノ計畫ノ如
キモ、必ラズシモ之ヲ一種ノ空想トノミ批評シ
去ルベカラズ、況ンヤ之ガ完成後ニ於ケル自他
ノ享ク可キ鴻益ハ、其ノ建設ニ伴フ犠牲ト苦痛
トヲ償フテ裕ニ餘リアルニ於テオヤ。(附圖參照)

因ニ本稿ノ資料ハ主トシテ英國植民協會機關雜誌「United

Empire本年一月及二月號掲載れういん氏ノ「亞弗利加ニ於
ケル鐵道」ニ採リ之ニ二三ノ參考書ヲ參酌シテ私見ヲ加ヘタ
ルモノナリ。